

《2017 年医学生セミナー 夏期》 計 7 名分

【鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンター】

医学科 4 年

今回、鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンターでの医学生セミナーに参加させていただきました。下堂園教授、医局長の宮田先生をはじめ、医師の先生方、スタッフの方々には、ご多用のところ、丁寧で分かりやすいリハビリテーション医学に関する講義に加え、病棟回診、神経ブロックや嚥下造影検査の見学、公開講座での促通反復療法の実習、装具の体験などの機会を与えていただき、ありがとうございました。

私は、公衆衛生学大学院で学ぶ過程で、人々が住み慣れた地域で安心して、最期まで暮らしていくこと支える家庭医療や予防医療に、医師として関わりたいと思い、現在の大学に編入しました。以前から急性期疾患から在宅への復帰のための機能回復を目指すリハビリテーション医学に対して関心はありましたが、私の大学には診療科としてのリハビリテーション科がなく、リハビリテーション医学に関する系統講義や臨床実習もないため、今回、回復期におけるリハビリテーションの実際と、医師がどのように治療に関わっているのかを知りたいと思い、セミナーに参加させていただきました。

セミナーに参加するまでのリハビリテーションは、理学療法士や作業療法士が行う訓練が主体で、医師は訓練や装具の処方を行うだけで、訓練などに直接的に関わることは少ないような印象を持っていました。しかしながら、霧島リハビリテーションセンターでは、医師も促通反復療法の手技を修得されていると聞き、かつ実際に訓練室で、患者さんの訓練に立ち合われている様子を見て、イメージが覆されました。装具診においても、作成された装具が患者さんに適したものであるかを、一人一人丁寧に評価されていることが印象に残りました。また、回復期リハビリテーションの患者さんは、再発のリスクや複数の基礎疾患を抱えており、再発予防や訓練を安全に行うためにも、リハビリテーション医の介入が必要であるということも気づかされました。さらに、カンファレンスや独自の機能診では、患者さんの疾患や身体的障害の評価や治療計画に加え、家庭状況や、職業、社会資源に関しても評価や議論がなされていること、また実際に医師も家屋調査に同行され、どのように社会資源を活用し、環境の改善を行えば、患者さんの在宅および職場復帰につながるのかを、さまざまな職種と連携して取り組まれていることなど、リハビリテーション科独自の視点や医学的管理だけに留まらない医師の患者さんとの関わりをされていることを知りました。

今回、特に、患者さんに接し、教科書だけでは学ぶことができない疾患の特徴、評価や検査についても知ることができたこと、促通反復療法による訓練や神経ブロック等の処置を通して、患者さんが回復されていく過程を見学できたことは、リハビリテーション医学の一端を知るうえで貴重な経験となりました。このセミナーで得たことをこれからの大学での学びや今後の進路選択の参考にしていきたいと思っています。

医学科 3 年

今回の夏季セミナーは、まだリハビリテーションの臨床の講義も受けていない状態での参加ということもあり、いろいろと不安もあったのですが、やさしい先生方が常にそばにいてくださったので、わからないことは何でも質問できましたし、丁寧に答えていただけたことがとても嬉しく、また、とても勉強になりました。

さらに今回の実習のテーマを他職種連携に決めている旨をお伝えしたところ、ドクター、PT、OT、看護師でのカンファレンスを見学させていただいたり、施設見学や診療手技の見学の際にも他職種連携と関連付けた説明をしていただけたりなど、柔軟に対応していただけたので、自身で設定した実習の目標を達成することもできました。

そして何より、先生方が患者さんや他職種の先生方と接する姿をみて、これから目指すべき自身の将来像を今までよりもっと濃く描くことができました。

病院内での実習だけでなく、霧島神宮や丸尾の滝の観光もさせていただきましたし、病院の外では湯煙がもうもうと辺りを包み込んでいて、霧島の雄大な自然を感じることもでき、貴重な体験でいっぱいの、忘れられない4日間となりました。本当にありがとうございました。

学生生活の残り3年間、今回の実習で学んだことを忘れず、勉学に励み、さらにいろいろな経験を積んで、立派なドクターになればと思います。

本当にありがとうございました。

【島根大学リハビリテーション科】

島根大学 6 年

セミナーに参加する前は、リハ科に興味はあるけれど具体的にどのようなことをするのか漠然としかわからない、という状態だったのですが、今回初めてセミナーに参加させていただき、具体的なイメージを掴むことができました。セミナーを通じて、リハ科はどの科よりも患者さんを全人的に捉え、多職種が密に連携しながら患者さん一人一人と向き合っていく科であるという印象を受け、大きな魅力を感じました。また、リハ科医には自分が想像

していたよりも遥かに幅広い知識が必要であることを知り、その点でも非常に興味深く、学びがいのある分野であると思いました。今回のセミナーは 1 日という短い時間でしたが、お忙しい中多くの先生方に熱心にご指導いただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

【東京大学医学部附属病院リハビリテーション部・科】

医学部 6 年生

今回のリハビリテーションセミナーでは、様々な経験をさせていただきました。国立障害者リハビリテーションセンターでは、視覚障害、聴覚障害といった様々な障害のある方への支援するための施設や脊損患者のリハビリテーションを学びました。電動義手も装着させていただき、仕組みについて理解することができました。翌日の JR 東京総合病院では、義足や HAL の装着をさせていただき、患者の目線になることができました。国立国際医療研究センターでは、カンファレンスや装具の処方する様子を見させていただき、現場の体験をすることができました。最終日の東京大学医学部附属病院では、車椅子などのリハビリテーションの器具の説明や体験をしてくださいました。また、鍼灸などの体験をさせていただき、大変面白かったです。午後は医師会診療所で、新宿区の開業医、歯科医師の方達と内視鏡検査の見学をさせていただきました。地域との連携の重要性について学ぶことができました。3 日間とも内容が濃く、楽しく学ぶことができました。義手義足など自大学では、あまり見ることのできないものを見ることができ、大変良かったです。3 日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

一般病院勤務（医師 8 年目）

現在勤務する研修病院には専属のリハビリテーション医がおらず、研修期間中では専門的知識を得難い状況です。今回のセミナーに参加させていただき、施設設備はもとより専門医として活躍されている先生方のリハビリテーション領域に関する展望やご意見を拝聴させていただけたことは非常に貴重でありました。

リハビリテーション専修医 1 年目（医師 3 年目）

私が参加したのは国リハでの半日のみでしたが、同施設の脊損入所者の障害手帳を使ったリハビリに触れることができた大変貴重な機会でした。お陰様でリハビリについて知っている世界を広げることができました。そして同じようにリハビリ科を考えている若手医師・学生の方と知り合い、お話することができたのも大変良かったです。この度は東大夏季セミ

ナーに参加させていただきありがとうございました。

一般病院勤務（医師 4 年目）

東京大学の関連の様々な施設を巡り、それぞれの医療機関の特色を知ることができました。また色々な先生方やコメディカルスタッフの方と知り合い交流することができました。どの方もとても気さくで色々なことを教えていただき充実した時間になりました。また実際に装具や HAL の装着、鍼灸体験等も行うことができ、とても貴重な経験をすることができました。